

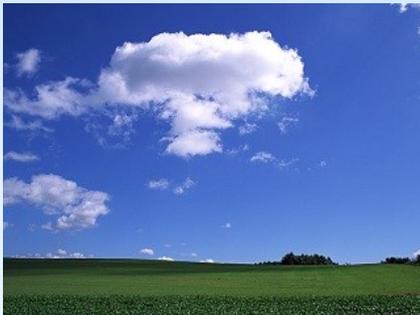
くれあ通信 8月号

先月号に6月のアメリカ紀行を載せました。今回は、ロスからサンフランシスコ近郊に場所を移し、お話し致します。

俗にシリコンバレーと言われるエリアは、北はサンフランシスコ、南はサンノゼ、サンタクララ辺りまでの辺りを指していて、ハイウェイであれば車で南北約1時間強くらいの距離になります。ここに様々なコンピュータの会社がひしめき合っています。コンピュータサイエンスで有名なスタンフォード大学はこのシリコンバレーの中心に位置していますし、北にいればBSDで有名なUCバークレーがあります。このシリコンバレーはまさにIT業界のメッカであり、歴史そのものなのです。

技術は日進月歩であり、私を知る時代からはかなり変わりました。サン・マイクロシステムズはOracleに買収され、かつての所在地にはもはや会社がありませんでした。今や最大手のGoogleは東京ドームくらいの敷地に悠然と構えていますし、Facebookもこの地で隆盛を極めんとしています。

来月は現地の人に聞いたトピックをいくつかご披露致します。



朝霞紹介



最近台風の影響もあり、過ごしやすい気候が続いておりますが みなさん体調はいかがですか？ 私の周りでは小さな子供が夏風邪をひき高熱が2～3日下がらないと聞いております。明け方は冷えますので窓の開閉を半分にするなどしてご自愛ください。

さて、暦上は夏まっさかり。至る所で町内の夏祭りが開催されております。7月30日は根岸台の向原公園でお祭りがあります。ここでも子供たちによる鳴子が披露されるようです。また、8月20

日は栄町の栄町市民センターうらにて夏祭りが開かれます。4中の鳴子や朝霞高校JAZZ音楽部などたくさんのゲスト出演があるようです。そして8月6日、7日は朝霞市のお祭りです。お祭りは人を明るくし楽しい気持ちにさせる力があると思います。みなさん積極的に外に出ましよう！



映画紹介

『ハート・ブルー』

夏まっさかりということで、今回はそんな季節にぴったりな『ハート・ブルー』をご紹介します。主演はあのキアヌ・リーブス。そして、その相手役は2009年に他界した『ゴースト』のPatrick・スウェイジです。1991年の作品で、今から20年前の映画になります。この作品は相反する男同士の熱き友情の物語で、その舞台が「海」なのです。いや正確には「波」といった方が正しいですね。そうです、彼らはサーフィンを通じてその友情を確かめ

合うのです。驚くことにこの映画の監督はキャスリン・ビッグローという女性の監督で、実は先日『ハート・ロッカー』でアカデミー賞を取りました。熱い映画を暑い夏に観たい人は是非手に取ってみてください。絶対に損はない素晴らしい快作です。

ハート・ブルー
Point Break
1991

Director: Kathryn Bigelow
Writer: W. Peter Iliff
Cast: Keanu Reeves
Patrick Swayze



書籍紹介



『猫を抱いて象と泳ぐ』 小川洋子

「大きくなること、それは悲劇である」。この箴言を胸に十一歳の身体のまま成長を止めた少年は、からくり人形を操りチェスを指すリトル・アリョーヒンとなる。盤面の海に無限の可能性を見出す彼は、いつしか「盤下の詩人」として奇跡のような棋譜を生み出していく —

「博士の愛した数式」で有名な小川洋子氏の著作です。チェスに造詣があるわけではないのですが、上述のあらすじに惹かれ、初めて著者の作品を手

取りました。洋書の翻訳を読んだときによく感じる、主人公の感情の波にどうしても寄り添えない悲しい感覚を多少抱きましたが、それを越えて余りある、物語を展開するきれいな文章が印象的でした。

まるで山奥深くの湧水のように、小さく静かに、それでも確かな感動を与えてくれる作品です。読後、その余韻にひたることの出来る小説は貴重であり、その一つに出会えたことをうれしく思います。

Crea

コンピューターソフトウェアの企画、開発なら株式会社クレアへ